

背景

これまでのワーク・ライフ・バランスと精神健康の研究では『仕事と家庭のネガティブな流出効果』のみが注目されており『役割間のポジティブな流出効果』を考慮した研究はほとんど見られない。しかし精神健康との関連要因を考える上で『ポジティブ側面も含めた網羅的な研究の重要性』が指摘されている。そこで本研究では、仕事⇄家庭のネガティブ流出効果および仕事⇄家庭のポジティブ流出効果と、精神健康(心理的ストレス反応)との関連を検討した。

方法

- 対象: 東京都世田谷区の保育園に児(0-6歳)が通う共働き夫婦8,964人
- 調査方法: 記名自記式調査表(2008.9~10.実施)
- 回答者(回答率): 2,992人(回答率33.4%)
- 分析対象: 2,346人(男性1,104人,女性1,242人)
- 変数・使用尺度
 - 役割間流出効果: Survey Work-home Interaction-Nijmegen(SWING)22項目版(Geurtsら, 2005)
 - 心理的ストレス反応: K6日本語版(Furukawaら, 2008)
- 【仕事領域変数】
 - 仕事の負担: 量的負担(Furda, 1995), 感情的負担(Veldhovenら, 2002)
 - 仕事での裁量権: 職業性簡易ストレス調査票(下光ら, 1998)
 - 職場サポート(同僚・上司): 職業性簡易ストレス調査票(下光ら, 1998)
- 【家庭領域変数】
 - 家庭の負担: 量的負担(Peetersら, 1998)
 - 家庭での裁量権: (Bakkerら, 2005)
 - 家族サポート: (Bakkerら, 2005)
- 解析方法
 - 各変数の平均値の男女比較: t検定.....結果1.
 - 各変数と精神健康との関連: 階層的重回帰分析.....結果2.

結果1. 男女間比較 (P<.001)



男性で高かった変数

- 仕事の負担
- 仕事での裁量権
- 仕事から家庭のネガティブ流出効果
- 家庭から仕事のネガティブ流出効果



女性で高かった変数

- 家庭の負担
- 家庭での裁量権
- 仕事から家庭のポジティブ流出効果
- 家庭から仕事のポジティブ流出効果

※ 心理的ストレス反応は有意差なし

投入順序

【仕事関連領域】

- Step1 個人属性(年齢, 末子年齢, 雇用状況)
- Step2 +仕事の負担, 仕事での裁量権, 職場サポート
- Step3 +仕事→家庭ネガティブ流出効果, 仕事→家庭ポジティブ流出効果

【家庭関連領域】

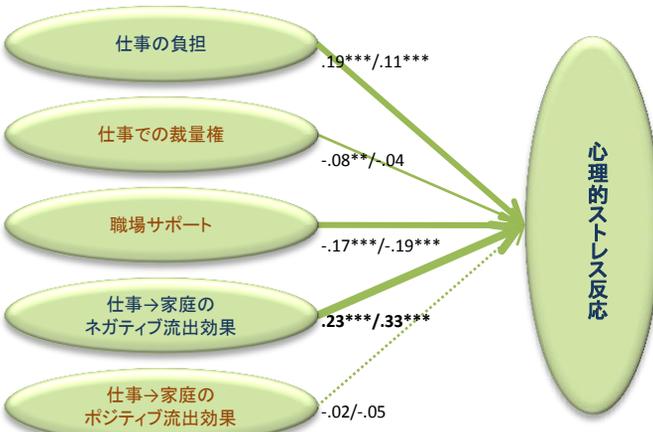
- Step1 個人属性(年齢, 末子年齢, 雇用状況)
- Step2 +家庭の負担, 家庭での裁量権, 家族サポート
- Step3 +家庭→仕事ネガティブ流出効果, 家庭→仕事ポジティブ流出効果

結果2. 階層的重回帰分析

標準化偏回帰係数: 男性/女性 *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

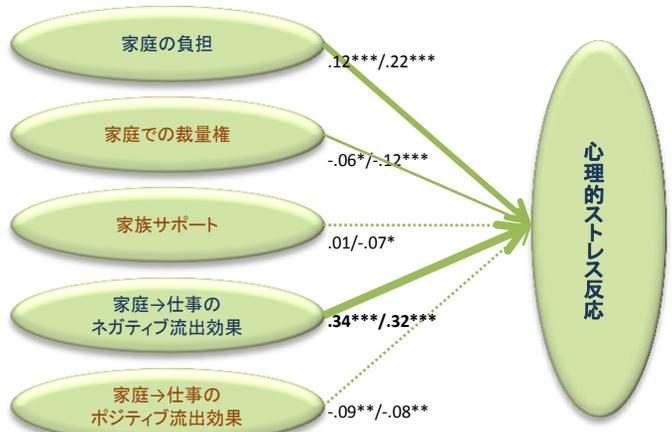
仕事関連領域

(adjusted R²=.21***/.23***)



家庭関連領域

(adjusted R²=.18***/.24***)



結論

- 仕事⇄家庭 **ネガティブ**流出効果は、未就学児を持つ労働者の心理的ストレス反応を上昇させる可能性
- 仕事⇄家庭 **ポジティブ**流出効果は、必ずしも心理的ストレス反応の低下にはつながらない可能性
- 今後は縦断研究での因果関係の解明など更なる研究が期待される



【謝辞】本研究に多大なるご協力をいただきましたBakker, A. B.教授 (Dept. of Work and Organizational Psychology, Erasmus University, The Netherlands), Demerouti, E. 准教授(Dept. of Social and Organizational Psychology, Utrecht University, The Netherlands)に厚く御礼申し上げます。